

# 30P-am01

新規がん特異的分子種 cancer-type OATP1B3 のヒト肺がん組織における発現プロファイルの解析

○孫 雨晨<sup>1</sup>, 降幡 知巳<sup>1</sup>, 石井 聖弥<sup>1</sup>, 長井 美樹<sup>1</sup>, 上市 敦子<sup>1</sup>, 本橋 新一郎<sup>2</sup>, 吉野 一郎<sup>3</sup>, 千葉 寛<sup>1</sup>(<sup>1</sup>千葉大院薬・薬理学, <sup>2</sup>千葉大院医・免疫細胞医学, <sup>3</sup>千葉大院医・呼吸器病態外科学)

【背景・目的】有機アニオントランスポーター organic anion transporting polypeptide 1B3 (OATP1B3)は肝臓および種々のがん組織に発現することが知られている。最近我々は、正常肝に発現する OATP1B3 mRNA と異なる配列を有する新規 OATP1B3 mRNA 分子種、cancer-type OATP1B3 (Ct-OATP1B3)、を同定した。そこで本研究では、Ct-OATP1B3 の肺がん組織における mRNA 発現プロファイルとその患者背景との関連を明らかにすることを目的とした。

【方法】ヒト肺がん組織および隣接正常組織 30 検体は、千葉大学医学部附属病院にて手術をおこなった肺がん患者より入手した。Ct-OATP1B3 mRNA 発現量は real-time PCR により解析した。Ct-OATP1B3 の発現量と性差およびがんの進行度との関連は Mann-Whitney 検定法により解析した。

【結果・考察】 Real-time PCR の結果、がん組織 30 検体中 10 検体で Ct-OATP1B3 mRNA の顕著な発現が認められた。Ct-OATP1B3 mRNA は隣接正常組織に比べがん組織で優位に高く発現しており(>3 倍)、また女性(n=8)より男性(n=22)においてその発現量は高かった(>40 倍)。さらに、Ct-OATP1B3 mRNA はステージ II および III のがん組織において高く発現する傾向が認められた。以上より、Ct-OATP1B3 mRNA はヒト肺がん組織において高頻度に発現し、その発現量には性差が存在することが明らかとなった。Ct-OATP1B3 の発現量とがんステージの進行度には関連がある可能性があり、今後さらに検体数を増やして解析する必要がある。